理容さかもと

お客さんとの絆をつな 営業再開

や休業日などは村でやっていた時と 変えずに「飯舘ル 川俣町での再オープンですが、料金 で川俣にプレハブ店舗を建ててもら 事業があると聞いたので、その事業 ありました。ちょうど、中小機構の そこに移転して営業したら」と話が 業をどうするか考えていた時に知 から「川俣町に土地があるから 村が避難区域になって、今後の営 10月下旬にオープンしました。 ル」でやっていま

遠くの避難先からお客さんが来

散髪中もお客さんとの会話を 楽しんでいます

気持ちになってもらいたいと思って たお客さんには、帰る時には楽しい を見ると安心しますね。 なっています。何より、村の人の顔 を通るときに手を振ってくれる方 代わりに寄ってくれる方や店の前 が見て、足を運んでくれる。休憩所 営業していれば、村へ行き来する方 営業しています。 も。お客さん同士の交流の場にも

来てくれ

客したい」ということですね。

のは、「震災前と同じ雰囲気で接

現在の営業で特に心がけている

れたら、と思っています。 な状態になって皆さんと一緒に戻 たいというのが望みです。 どこにいても安心・安全で暮らし 村が安全

ならないので、今、

かないと思っています

坂本 剛さん (草野)



あり、修理や整備の依頼が増えま

営業再開が認められました。今で が、お客さん優先で仕事をしていま も、村に荷物を取りに来る方や見 した。予想外の忙しさだったのです 平成24年7月30日から村内での

坂本さん(右)と妻の紀美子さん

渡辺輪業自動車整備工場

渡邊 茂弘さん (飯樋町)

には自動車が不可欠ということも

震災後、村民が避難するため

話す渡邊さん「震災前と同じお店で」と



守り隊をしている方が利用してく

れます。避難しながらもこうやって

来店してくれることはとてもありが

交換の注文が増えました本格的な冬を前にタイ



ちや体力を維持していかなければ 本格的に始まる時のために、気持 め、工場周辺の除染は一日でも早 してもらいたいです。村の復興が 村の除染は早く進めてほしいで 特に村での滞在時間が長いた 一生懸命やる。

田

猛史さん

(関根・松塚)

畜産農家

仕事は続けた方がいいと思いまし が県外に避難し、牛肉関係の仕事 外で牛を飼える場所を探していま うと。自分の健康管理のためにも てきた時のために牛飼いを続けよ に就いたから。いつか、息子が戻つ した。それも、後継者である息子 村が全村避難になったので、村

の往復も大変でしたね。

現在、妻と父母、自分の4人で

ることも多くて、飯舘と中島村と 村に機械などを取りに戻ったりす 慣れるまでが大変でした。それに

舘牛のブランドを守る

て続けてきた黒毛和種はどこかで

理だけれど、妻の「これまで苦労し た。乳牛は他に連れて行くのは無 家族で今後のことを話し合いまた りでは休業する畜産農家が多く

していました。村が避難になり、周

震災前までは酪農と畜産を経営

畜産農家

原田

貞則さん

(飯樋町)

続けたい」の言葉に、「そうだな」と

畜産を続けようと決めまし

ています。年を取った父と母も中島 に勤めながら一緒に牛の世話をし から、近くの特別養護老人ホー 避難しています。妻は先行きの不安

中島村の今回の

に静かな環境だからいいのかもしれ 村になじんでいます。飯舘村のよう

た。そんな時、

畜舎を紹介し

ないですね。

てもらい、

山田

産をやることに さんと一緒に畜

しました。本宮

現地を見てすぐに決めました。 田さんから中島村の話をもらい、 れも決め手に欠けていたところに原 んで牛の移動先を探しましたが、ど 来てすぐは、連れてきた牛がエサ 避難の時は、県内外にも足を運

ます。仲間と一緒にできるのがこち た。今では慣れて、よく食べていま 村では買ったエサをあげたことがな を食べずに苦労しました。これまで るので、話し相手がいるのは助かり く、食べ慣れていなかったからでし らに来て良かったことです。 原田さんたちと一緒にやってい

て牛の世話をしています

通って牛の世話

げアパー

から

近くの借り上

買った4頭を含 の臨時の競りで

めた21頭でのス



るわけにはいかないですね。 ろうと。そのためにも畜産はやめ 牧すれば管理に手がかからないだ 残しておけないので、そこに牛を放 ぼをつくっても、未活用の田んぼを の夢です。条件がいいところは田ん 水田放牧をしたいというのが自分 たら、水田に電気牧柵をまわして



山田さん(左)と妻の陽子さん

村内の農地の除染が完全にでき

です」と話す原田さん「牛舎の大家さんの協力が大きい

6